

～成すことは必ずしも困難ではない。  
が、欲することは常に困難である。～【芥川龍之介】

## 昨日は昨日、今日は今日

“歡樂極まりて哀情多し”。これは、漢の武帝が「**楽しみ**の影に**忍**び寄り**悲しみ**」を詠った名句だ。生徒諸君は文化祭が終わり、さぞかし喪失感に襲われているのではなかろうか。物事は切り替えが大事だが、今回の文化祭により、友人との新たな関係が生まれ、より一層クラスがまとまったことであろう。この気持ちを持って卒業に・・・いや、卒業したあとの人生に向かって歩いて欲しい。この経験は必ず諸君の見方になってくれる。

最後に一言。感動をありがとう。

### 《最優秀賞》

3年3組 『心の殻を破るとき』

### 《優秀賞》

3年1組 『俺たちはどう生きるか』

### 《特別賞》

3年2組 『奏でる日常』

## 各クラスの感想 (次号は1・4・5組を掲載します。)

3年2組 T・S

『もっとみんなで何かしたい!』

人生で最後の文化祭、最初は皆どうなる事かと思っていましたが、テーマの『結』に沿った舞台をすることとなりました。見てもらう人に何を舞台で訴えるか、何を表現するかで揉めに揉めました。最終的に、2組の舞台は『奏でる日常』。日常の中でも楽しいことはたくさんある、それに気付いて欲しいという思いで2組はスタートしました。さっそく練習が始まるや否や、朝練と放課後の集まりが非常に良

くありませんでした。2組の出し物では、1人欠けることでまともな練習ができません。そんな中、先生と揉める生徒もいました。そんな練習に嫌気が差した僕は、先生に当たってしまい、ひどい言葉を投げつけてしまいました。それでも先生は、「みんなで頑張ろう。」と涙ながらに言ってくれました。

本番まで残り1週間という短い期間の中で、朝練や放課後みんなで通しの練習をしました。いよいよ、迎えた本番、緊張する中でブラシ、ドレミパイプ、ストンプ、ダンスそれぞれのパートを全力でやり切りました。前までの僕なら「やっと終わった!」と思っていたはずですが、今回は「もっとみんなで何かしたい!」という気持ちになっていました。改めて仲間と協力して何かを成し遂げる事の大切さを学びました。この気持ちを忘れずに、残り少ない高校生活も、メリハリをつけて過ごしていきたいと思います。また、悔いの残らない高校生活にしたいと思います。みんな、ほんまにありがとう。



### 3年3組 M・H

#### 『後ろから見られる景色』

「文化祭で前に立って頑張る役者と同じくらいに、裏方の仕事は大切だ」と先生に言われたことを強く覚えています。

最初は自分も役者をしたいと思っており、それを先生に伝えると、最初の言葉を言われて裏方のリーダーになりました。活動初めの頃は人が集まらず、裏方の二、三人で活動をしており、正直なところやる気になりませんでした。しかし、役者のみんなが練習を重ね、どんどん上手になっていく姿を見て、焦りを覚えました。その頃先生には、「裏方のやる気があまり見られないので、人数を減らすかもしれない」と言われており、ますます焦りが募りました。

「役者のみんなが遅くまで頑張って劇の練習をしているのに、裏方のせいで台無しにしたくない」。このままの自分たちでは駄目だと思って、先生の指示や監督がなくても、声をかけ、人数を集め、何度も話し合いをしました。みんなで照明や音響に取り組むうちに、照明のタイミングを合わせる難しさや大切さ、役者と裏方で間を考えることでいくらかでも劇を良くする工夫ができるおもしろさを知ることができました。

文化祭当日、劇は大成功しました。劇が終わった後、クラスのみならず「裏方が縁の下の力持ちとなって頑張ってくれたから成功したよ」と言ってもらったとき、心の底から「裏方をやってよかった」と思いました。

舞台上に立ったり、主役になったり、ナレーターをしたり、スポットライトを照らしたり、演劇の成功を見守ったり…。今回の文化祭では、目立つ・目立たないに関わらず全てが大切な役割であり、役割が無い人などいないということを知ることができました。

### 3年3組 Y・M

#### 『もうひとつの喜び』

練習初めの頃です。「友達と遊ぶから」、「めんどくさい」と言って残らない。残ってもやる事がなかなか決まらない、大道具の作業も進まない、練習しても声を出さない。しばらく少人数での練習が続きました。

毎日毎日朝早くから来て、遅くまで残り、土曜日も来て、大道具を作り、練習もして、とてもしんどい日々が続きました。しかし練習や準備を続けるに従ってどんどんみんなが練習に参加していきました。文化祭の練習を通して、普段話さなかったクラスメイトと話すようになったことがとても嬉しかったです。

劇の成功以外にも、クラスにとってもう一つ嬉しいことがありました。それは宣伝ポスターで最優秀賞をいただいたことです。平日も土曜日も、劇の練習の合間を縫ってポスターを作りました。絵を描くことはもともと好きですが、表彰されるかもしれないと聞いてますますやる気ができました。絵の具を使ったり、紙に厚みを出して立体的にしたり、ファスナーを使ったり、PR文を書き込んでみたり、工夫を重ねました。1階に飾られたいろいろなポスターたちに並んだ3年3組のポスターを見て、頑張って作ってよかったな、と思いました。

文化祭が全て終わって、劇の表彰はもちろん嬉しかったです。しかし、宣伝ポスターを表彰されたとき、「やりきった！よかった！」と思いました。文化祭に真剣に取り組んだからこそ、自分たちが納得できる良い舞台にできたと思います。

